

コハクチョウや水鳥達が安心して住める環境づくり

吉岡 美佐子

草津湖岸コハクチョウを愛する会・日本白鳥の会滋賀県理事

525-0051 滋賀県草津市木川町1273-13

本年度より日本白鳥の会滋賀県理事を拝命することになりました。これからも琵琶湖の情報を発信して参りますので、どうぞ宜しくお願いいたします。環境ボランティア草津湖岸コハクチョウを愛する会の草津事務局長として、日本白鳥の会研修会に参加させていただき、毎年日本各地で開催される現地研修会では、自然豊かな白鳥の飛来地を訪れその素晴らしさに魅せられ、厳寒の大雪の中ハクチョウたちのため頑張ってお世話される様子など目の当たりにして大変感動いたしました。大会中に全国の会員の皆様と親しく交流する機会にも恵まれ、琵琶湖しか知らなかった私には本当によい勉強になりました。

また以前総会で草津の観察小屋設置許可への要望書をと、皆様から心強いご支援をいただきました。お蔭様で小さな観察所ですが草津水鳥観察所を設置し、毎年冬期3ヶ月間観察所を活動拠点として水鳥観察会、環境啓発パネル等の展示場所に利用することが出来ました。皆様に御礼申し上げます。



琵琶湖草津湖岸冬景

ここで会の“草津湖岸コハクチョウを愛する会”の活動を紹介します。

〈会の設立・会員数〉

2000年3月設立、2012年度会員数50名

〈目的・趣旨〉

コハクチョウ飛来地の環境保全と環境啓蒙活動の推進を目的として、コハクチョウや水鳥の愛護支援、琵琶湖や飛来地周辺の清掃、環境整備、環境啓発活動、観察会支援、コハクチョウの個体識別など調査研究にも取り組み、次世代に豊かな自然を引き継ぐよう‘琵琶湖を美しく、いつまでも残したいコハクチョウたちの来る良い環境づくり’をモットーに年間を通し活動を行なっています。

〈活動拠点・活動範囲〉

草津湖岸志那浜・琵琶湖、湖南地域

〈活動内容〉

琵琶湖のおもな飛来地は長浜市湖北町（湖北）、高島市新旭町（湖西）、草津市志那町（草津）です。琵琶湖には毎年 500 羽近いコハクチョウがやってきます。今年も 10 月 9 日湖北にコハクチョウが初飛来しました。11 月には湖西 12 月に草津と次々やってきます。琵琶湖の 3 箇所の飛来地とは情報交換や定期的に合同白鳥飛来数調査をしております。

しかし近年、草津湖岸においてはコハクチョウの飛来数が激減しました。その主な要因は 4 年連続でコハクチョウのねぐら・休息地である旧草津川河口、野洲川河口、赤野井湾周辺 3 箇所のヨシ帯増設工事、南湖の湖底環境改善工事が行われ、丁度工事期間が 11 月から 3 月の飛来時期と重なりねぐらの環境が脅かされコハクチョウが近寄らず、旧草津川河口など以前のねぐらを放棄しました。

このため草津から約 30km 離れた松ノ木内湖（湖西）にねぐらを移し、そこから時々飛来しますが、以前の 10 分の 1 に激減し過去最少になりました。

更に近年冬期に琵琶湖の水位を深くしており、深くなると餌となる水草に届かず餌が採れません。湖北湖西では早くから田んぼで採餌しますが、草津では田んぼにあげられない環境と冬水田んぼも琵琶湖からの水が引けないため出来ないのです。

他にも温暖化の影響と考える外来生物ナガエツルノゲイトウ、ホテイアオイ、ひしの異常繁茂が琵琶湖でも問題になり、また冬季まで横行するプレジャーボートの脅威、釣り人が残した放置釣具による怪我と、コハクチョウたちにとって余り安全な良い環境とは言いがたい状況になってきています。このような様々な要因が重なり激減しました。

我々も特定外来水草を揚げ、釣り糸釣り針の除



外来水草の除去作業

去、ねぐら再生対策などに取り組んでおりますが、効果的な対策はなく苦慮しております。

草津観察所では 10 年前より草津に飛来するコハクチョウの嘴の写真を撮り、個体識別調査を実施・継続調査しております。

3 年前からは学術調査員の補助としてユリカモメやオナガガモの足にカラーマーキング（足環・標識）をつけ毎年取り付け後の調査と観察を実施しています。

環境啓発活動は冬の飛来期間中、朝から夕ぐれまでコハクチョウや水鳥の写真、環境問題をテーマとした写真を撮り、年間を通して環境写真展や、出前講座、企業の地域貢献活動の支援などを行っています。

観察会支援では保・幼・小学校、野外活動ボランティアが開催する観察会で琵琶湖の環境を守ることの大切さを学んでいただいています。

草津湖岸には毎年期間中 1 万 5 千人～2 万人の方がその優雅な冬の使者たちを観ようと、県内はじめ近畿、東海一円から寒い中琵琶湖



小学校水鳥観察会

を訪れ、雪の山々と白鳥やカモたちがくつろぐ美しい湖の風景を楽しんでおられ、冬の草津湖岸は近畿の水鳥観察スポットとして、今でも人気の場所です。

ラムサール条約指定地琵琶湖は湿地として利用できる水鳥の楽園なのです。コハクチョウ達は子育てのため越冬し春まで過ごします。

そこは子ども達の大切な水鳥観察・環境教育の場でもあるのです。

ふるさとの豊かな自然を大切に次世代に引き継げるよう、自然と野鳥と人間が共生できる環境の実現を目指し、琵琶湖草津湖岸が水鳥の楽園になるよう願っています。

草津湖岸コハクチョウを愛する会設立 12 年を迎え、多くの厳しい環境問題に年間を通じ取り組んでいます。

2012 年度第 37 回日本白鳥の会研修会を平成 25 年 1 月 19 日（土）20 日（日）草津市琵琶湖大会の開催予定になっております。

全国の皆様と、この大会を通じ親しく交流する機会を持ち、意見交換しながら全国に飛来している白鳥たちが安心して住める環境を考える機会になるよう願っております。